

認定NPO法人

## ロシナンテス



### 活動紹介

### 現地の人たちだけで医療を継続できる仕組みづくりを目指す

ロシナンテスは、「病院がない」「医者がいない」といった厳しい地域に暮らす人たちに医療を届ける活動を続けている。設立当初は日本人医師が、現地で直接医療を行っていたが、現在は「支援した地域の人たちが、“医療”を自分たちのものとし、地域の人たちだけで医療を継続できる仕組みが根付いている世界」をビジョンに掲げて、給水所の整備、栄養改善なども含めた包括的な保健事業を整備し、現地の人たちだけで医療を継続できる仕組みづくりを目指している。

例えばスーダンでは、医療施設のない地域もいまだ多く、病気になるっても適切な診療を受けることが困難な状況にある。特に村落部は広大な砂漠に村が点在しており、歩いて何時間もかけなければ病院にたどり着けない。ロシナンテスは、その中でも東京都とほぼ同じ広さに一つも医療施設がなかった地域で、医

### 団体DATA

大使館の医務官としてスーダンに赴任した川原尚行が、現地の人々を診療できないことに限界を感じ、外務省を辞して2006年に設立。スーダンやザンビアで、保健医療が受けられない地域に医療が届く仕組みを整備している。

### 活動分野



療サービスチームが車で村を回る「巡回診療」を展開し、およそ2万人の住民の健康を守る仕組みを整えた。2週間をかけて砂漠続きの地域を回るこの活動は過酷なものだが、同国保健省に活動を引き渡した後も続いている。

また、月に一度の巡回診療だけでは、緊急対応や継続的な診療ができず、救うことのできない命があることから、保健省や地元住民と共に診療所を建設した。「人、物、仕組み」の面で、持続的な運営にはまだ課題もあるが、診療所が地域診療のシンボルとなるよう尽力している。

物も情報も不足しているスーダン、ザンビアの事業地で、新型コロナウイルス感染症対策として衛生用品の配布や啓発活動も実施。ザンビアでは、マスクがないことで学校に通えない子どもたちが多くいることがわかり、マスクの寄贈も行った。